

ワークライフバランス ～長期休暇の実現と女性流時間利用術で～

やまぐち ようこ
山口 洋子

連合 副事務局長

ゴールデン・ウィーク（GW）が終わった。私にとって8日間の貴重な休暇体験であった。何が貴重な体験かと、思われるかもしれないが、一昨年職場が変わるまで長年の間、GWは連休ではなく、稼ぎ時であったからだ。GWが稼ぎ時というのは百貨店だけの話ではなく、多くのサービス関連産業でも同様であると思うし、それはGWに限らず他の連休に共通して言えることであった。百貨店に就職した当初は、世間一般が休むときに仕事をするに、世の中からおいて行かれてしまったような寂しさを感じたが、慣れてくるとウィークデーに振替られる連休の方に、混雑がない、割安である等のメリットを感じ、むしろ平常日の連休を満喫していた。

徐々に経験した世間並みの連休は多くの口スを感じさせた。急に思い立って友人を訪ねて軽井沢に行くのに、指定席がとれず混み合った新幹線に乗り、また、山ツツジや芝桜が見頃と出かければ駐車場に入るための長い待ち渋滞等々。GW情報を伝えるニュースを見ると私の経験はまだ許容範囲であり、混み合った新幹線から疲れ切って降りてくる乗客、遅々として進まない高速道路の長蛇の列が映されている。何のための休暇？多くの勤労者は働き詰めである。働き詰めだからこそ必要なオフ期間である休暇でも結果疲れてしまう。ましてや期間は1週間前後。もっと休みた～いが実感ではないか。

長時間労働が蔓延している労働の現場において、所定内・外労働時間短縮は喫緊の課題である。同時に休日・休暇の確保も重要課題である。連合の「労働時間に関する調査」でも、年次有

給休暇の取得状況は全体平均で14日前後である。特にサービス・一般、商業・流通等部門での取得状況は低くなっている。勤労者の権利である年次有給休暇を100%取得する、取得できる取り組みを是非進めたい。

一方で、休みが増えても行くところがない、やることがない、ただ家でボーッとしているだけ（これも重要であると思うが）であまり歓迎しない人達もいる。特に男性に多いように思う。そのような多くの男性に女性達の働き方、休み方を見習っていただきたいと思う。日常的に女性達は時間欠乏症になりがちである。配偶者や子どもを持つ女性は特に可処分時間が少なくなる傾向がある。その足りなさを補うために極めて効率的に時間を使っている。まず、「やらなければならないこと」を明確にし、さらにそれに優先順位をつけて、いつまでにというデッドラインも設定してことに及ぶ。「やりたいこと」も重視し同様な段取りをする。「やらなければならないこと」という責任や義務だけで時間を使わず、「やりたいこと」の実行で自分を豊かにする。

GW後のある日帰宅途中に見た光景。午後8時頃改札を出てきた父親らしい男性に男児が駆け寄り「あのね、パパと一緒に遊びたくて迎えに来ちゃった」と抱きついた。GW中にかんまりのスキンシップがはかられたのだろう。共に迎えに来ていた母親もにこやかに笑っている。努力して、工夫して、たくさんの「やりたいこと」を実現しよう。